

# 建築士等が災害時に歴史的価値保全復旧手法を提示する活動のためのマニュアル整備と、当該活動への参加意識調査を通じたマニュアルの実用性向上

## <調査概要>

■調査実施地域：静岡県

■調査実施者：公益社団法人 静岡県建築士会

・平成24年度調査において歴史まちづくりネットワークを構築手法を調査した静岡県建築士会が、災害時を想定した建築士などの専門家派遣調整、派遣後の被害状況調査、歴史的価値保全復旧手法検討及び提示のマニュアルについて、図上訓練や実際の歴史的建造物のケーススタディを通じて検討し、その活動に参加した建築士の意見からマニュアルの実用性について検証する調査を実施。

・図上訓練(浜松市入野地区を対象)により発災から半年までの派遣要員(建築士)の行動をシミュレーションした災害等行動マニュアルの作成を通じて、歴史的建造物の歴史的価値、被害想定等を所有者へ提示し、その意向をまとめるとともに、事前復旧及び被災後復旧マニュアルの作成を通じて、行政や職人、関係機関との連携体制や所有者との関わり方についての知見をまとめた。

## <調査内容>

### ■災害時調査等要員派遣マニュアルの検討

#### ◇事前準備

- ・現況調査の実施  
(歴史的建造物の存在、建築士在住場所等)
- ・防災地図の作成  
(歴史的建造物、防災関連施設：避難施設・緊急医療施設・避難路・緊急輸送路・消火栓等、プロット)

#### ◇図上訓練の実施

- ・発災後1週間、2週間、1ヶ月、2ヶ月、恒久対応の各段階における行動をシミュレーションし、課題等の洗い出し
- ◇発災後の対応、緊急調査  
応急危険度判定との連携、被災状況調査、応急措置等の調査派遣マニュアルを作成



### ■建築士へのアンケート

#### ◇建築士の参加意識

- ・歴史的建造物調査への参加意向 **65%**
  - ・災害時被災状況調査への参加意向 **55%**
  - ・参加しない場合の理由等
- |       |     |
|-------|-----|
| 時間がない | 58% |
| 知識がない | 32% |
| 実績がない | 24% |
| 興味がない | 11% |

#### ◇マニュアルへの反映

- ・若い年代は知識と経験の無さ、40歳代は仕事と家計費の問題、高齢年代は体力的理由から、参加が難しい
- 時間的に余裕、経験とネットワークのある元氣な60歳代の参加を促す
- ・事前の図上訓練シミュレーション、被災時調査ルート検討等の現場研修の実施
- ・都市部での職人等ネットワーク強化、都市部外は兼務できる人材の増強

#### ◇マニュアルの実用性向上

- ・行政との密な連携…応急危険度判定、住民相談窓口
- ・発災から半年までの行動指針…被災調査不参加は1/4 (アンケート)
- 災害時行動は充分対応可能

### ■明らかになったこと

- ・歴史的建造物のデータベースを整えておくことの必要性
- ・WEB及び紙ベースでの行政との情報共有化の必要性
- ・災害時緊急調査の重要性  
⇒価値ある建物の存続のために所有者との連絡手法を確立
- ・価値ある歴史的建造物が解体されないよう価値を伝える、価値を損なわない復旧手法の提示手法

### ■歴史的価値保全復旧手法提示マニュアルの検討

#### ◇ケーススタディの実施：旅館、町家、蔵の5件

- ・所有者への提示：建物の価値、地震による被災想定、被害軽減のための現時点での改修方策の提案
- ◇所有者の意識の変化
- ・被害想定前後での所有者の意識に大きな変化無し
- ・被害(倒壊)は想定範囲内であることが判明
- ・事前の対応(補強工事等)は経費がかかり困難
- ◇事前復旧、及び被災後の復旧のマニュアルを作成
- ・事前復旧…平常時における対応
- ・被災後復旧…被災調査→応急措置→復旧調査→手法検討の段階的な対応
- ・建物の価値を損なわない復旧、解体へと至らない措置、対応



#### ◇マニュアルの実用性向上

- ・平常時から所有者とのいい関係づくり
- ・所有者に建物価値を伝える
- ・被災後、維持か解体か…所有者とファーストコンタクトの重要性

### ■今後の課題

- 歴史的建造物に関する専門家を増やす  
⇒専門家研修の充実
- 専門家の地域一様な配置  
⇒静岡県ヘリテージセンター-SHECが計画的な配置を促す
- エリア内の情報の掌握  
⇒歴史的建造物所有者のとの良好な関係づくり
- 行政との連携  
⇒活動を通して協力体制の推進を図る